

城跡

青森県の城と言えば弘前城（弘前市）や根城（八戸市）が有名であるが、県内にはかつてはいくつもの城があった。その多くは現在では見ることはできないが、以下の3つは西北地区にあった城の一部である。

中泊町 中里城

縄文時代から各時代の人々によって利用され、平安時代には、空堀・土塁・柵列等により防御されたムラが造られていた。

当時の集落の様子を復元した史跡広場は、北奥地方における古代の様子を知るうえで重要な遺跡であることから、平成15年（2003）、県史跡に指定された。



鱒ヶ沢町 種里城

久慈郡（岩手県久慈市）の領主・南部光信（大浦光信）は、津軽氏の系図や系譜の中で始祖として伝えられ、その居城であった種里城跡は「津軽藩発祥の地」とされるようになった。種里城跡は、平成14年（2002）に弘前城跡・堀越城跡とともに「津軽氏城跡」として国史跡に指定された。



（鱒ヶ沢町教育委員会撮影）

深浦町 森山城（茶右衛門館）

ここを本拠地としていた森山飛驒守季定もりやまひだのかみすえが安東氏に叛いたため、天文15年（1546）に滅ぼされたと言われている。

その後、津軽為信の家臣であった小野茶右衛門が城主であったことから茶右衛門館とも呼ばれている。



（深浦町教育委員会撮影）